

# メディアドクター指標を活用したワークショップにおけるヘルスリテラシー向上の取組み

佐藤正恵<sup>1)</sup> 北澤京子<sup>1)2)</sup> 渡邊清高<sup>1)3)</sup>

1)メディアドクター研究会, 2) 京都薬科大学, 3)帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科

**【背景】**医療・健康情報の入手は、近年インターネットを通じてより身近になっているが、日本人は国際的にみて欧米に比べてヘルスリテラシーが低いという報告がある。

一方で、公共図書館では課題解決型サービスとして、医療健康情報が重要なファクターとなっている。市民だけでなく図書館員においても、情報を吟味し適切に選択する「インフォームド・チョイス」のための知識や実践がより重要である。

**【方法】**メディアドクターとは、医学記事の質を向上させるために、「メディアドクター指標」を尺度として、社会に発信された医療・保健記事を臨床疫学などの視点から評価する活動である。2004年にオーストラリアに始まり、各国で実施されてきた。日本では2007年に「メディアドクター研究会」が発足した。現在、年数回の定例会では、医療関係者・ジャーナリスト・学生・司書・市民などさまざまなバックグラウンドを持つ参加者により、(表)の指標に基づく記事評価やディスカッションが活発に行われている。

(表) 日本版メディアドクター指標 2018 簡略版

評価項目	説明
1. 利用できるか	利用可能か、どのような人の利用に適しているか、正確な情報を提供していますか？
2. 選択肢	ほかの選択肢と比較していますか？
3. 科学的な根拠	効果について、科学的な根拠を踏まえて書かれていますか？
4. 不利益と費用	不利益（副作用や後遺症など）や費用について適切に述べていますか？
5. 見出しと内容	見出しは内容について適切に記述していますか？

\*メディアドクター研究会作成。無断での引用・転載・複製を禁じます。

**【結果】**定例会参加者の満足度は高く、身近な存在である新聞やインターネットの医療・保健に関するニュースを演習形式のワークショップを通じて、見極め方を理解し、ヘルスリテラシーと情報リテラシーを身につけることができる。

さらに2018年からは「出張版ご当地メディアドクター」を開始し、日本各地で患者会や公共図書館、病院図書館などと共催で2019年12月までに6か所での開催を予定している。

第36回医学情報サービス研究大会（2019年8月12日、九州大学）における「参加者企画」として開催するにあたり、ポスター発表にて指標と「出張版ご当地メディアドクター」等さまざまな取組みを紹介する。

\*メディアドクター研究会：<http://mediadoctor.jp/>